

CASBEE™ 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	iPS細胞研究拠点施設	階数	地上5階、地下1階
建設地	京都市左京区聖護院川原町53番地	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	0人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	0時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2010年3月 予定	評価の実施日	2008年11月20日
敷地面積	63,775 m ²	作成者	廣田 哲
建築面積	2,146 m ²	確認日	
延床面積	11,973 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	多用で豊かな交流が生まれるキャンパス、地域に開かれたキャンパス、他大学や周辺施設との連携を持ったキャンパスを目標とし、計画をおこなった。	その他 0
Q1 室内環境	断熱性能を高めるとともに、自然換気の配慮を行った。	Q3 室外環境(敷地内) まちなみ、景観への配慮を行った。
LR1 エネルギー	省エネ計画をおこなうとともに、運用においても、環境負荷の低減に努めるものとする。	LR3 敷地外環境 関係法令を遵守し、敷地の緑化等をおこなった。
Q2 サービス性能	バリアフリー、耐震性の配慮を行った。	
LR2 資源・マテリアル	再生資源の活用、有害物質を含まない材料の使用に努めた。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency (建築物総合環境性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される